

「命救いたい」故郷に原点

初期臨床研修医として、笠松町の松波総合病院に入職した同町出身で今春東京大医学部を卒業した花村優太さん(25)は20日、同病院の松波英寿理事長と町役場を訪れ、古田聖人町長にあいさつした。



古田聖人町長に意気込みを語った花村優太さん(中央)＝笠松町役場

研修医・花村さん 松波病院へ入職

花村さんは今年2月の医師国家試験に合格。研修医として、今月から同病院で2年間、研修をする。

10年ほど前、祖母が同病院に入院した際、「先生らにお世話になり、自分も人の命を救いたいと思うようになった」と花村さんは医学の道を決めた。花村さんは「学生時代に先生たちから面談を受けた。働きやすく、充実した生活ができる」と同病院を研修先を選んだ。

花村さんはほかの研修医とともに各科で研修を行い、患者の診察や手術にも立ち会った。「2年間の研修で自分がどの分野に向いているか、将来進む道を決めたい」と語った。

古田町長は「故郷に帰ってきてくれてうれしい。日本の医療の発展のため、頑張ってください」と激励した。(長尾剛次)